

病理病態検査学特論 I (Advance of Pathological Analysis I)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝、澤田 浩秀	1年次前期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対する フィードバック方法	病理病態検査学特論 I では、臨床病態学のおよび病理学的解析法の最近主流となっている解析法や今後発展する可能性のある解析法による、幅広い形態学的解析法について学修する。同時に病態、形態学的解析法に関する英語論文を読解する。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員(山口、澤田)が講義を進める。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. プロテオーム解析について説明できる。 2. 最新の形態学的解析法について理解できる。 3. 最新の形態学的解析法に関する英語論文の抄読ができる。							
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/分からない用語については調べておく(各30分) 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/毎回の講義の復習を十分行うこと。英語論文を多く読み、読解力をつけること。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	プロテオーム解析とゲノム解析 1					山口央輝	
	第2回	プロテオーム解析とゲノム解析 2					山口央輝	
	第3回	癌のゲノム解析					山口央輝	
	第4回	癌の組織のおよびプロテオーム解析					山口央輝	
	第5回	動脈老化の組織のおよびプロテオーム解析					山口央輝	
	第6回	心臓老化の組織のおよびプロテオーム解析					山口央輝	
	第7回	ホスホプロテオミクス、比較プロテオミクス解析					山口央輝	
	第8回	まとめ					山口央輝	
	第9回	形態学的解析法の概要(講義)					澤田浩秀	
	第10回	免疫組織化学(酵素抗体法、蛍光抗体法)(講義)					澤田浩秀	
	第11回	画像解析ソフトを用いた解析法(講義)					澤田浩秀	
	第12回	分子病理学的技術(in situ hybridization、FISH)(講義)					澤田浩秀	
	第13回	最先端顕微鏡技術(共焦点顕微鏡、二光子顕微鏡)(講義)					澤田浩秀	
	第14回	形態学的解析法に関する英語論文抄読1(ゼミ)					澤田浩秀	
	第15回	形態学的解析法に関する英語論文抄読2(ゼミ)					澤田浩秀	
評価方法 評価基準	レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)で評価する。							
教科書	特に定めない			参考書等		担当教員が資料を配布する。		
学生への メッセージ	認知症はこれからの社会において避けては通れません。在宅医療を考える上での知識として重要です。 演習で実施する形態学的解析法について熟知しておくこと。							